第５１回東日本学生バドミントン選手権大会

白井　康太

２００８年8月２９日～9月5日にかけて、札幌市のきたえ～るで、東日本学生バドミントン選手権大会が行われました。参加者は賢、功介、白井、杉本、水谷、相川、町田、山口、大藤、浅野の計１０人でした。

8月２８日。学連として先に行っている大藤、遅れてくる賢、功介、浅野を除いた6人でフェリーに乗船。お酒を少々買って、みんなでトランプ。こうして1日目の夜は更けていく…。

8月２９日。苫小牧港からバスで札幌駅まで向かう。札幌駅周辺をぶらぶらして、大戸屋で昼食。ここまできて大戸屋とは…。まあうまかったからよしとしよう。そのあと、ＣＭ会議に向かう水谷、町田と別れて、北大の体育館に向かう。しかし…、地下鉄には乗ったもののどこで降りればいいか分からず、俺と杉本の勘で降りる。すると近くに北大が。やるじゃん俺らと思ってたら、北大広すぎ！体育館がどこにあるかわからず、グダグダ歩くはめに。結局、人に聞いてなんとか体育館に到着。水谷・町田も遅れて合流。

俺らが練習していると、また違う大学もやってきた。千葉大らしい。千葉大？明日団体戦であたるとこじゃん。一緒に練習してていいのかと思いながらも気にせず練習。すると、あちらからダブルスの相手をしてくれと頼まれる。明らかに偵察。ということでこちらも、杉本・相川、白井・山口、水谷・町田という異色ペアで勝負。見事全勝。ちょっと弱すぎだろうと思って、話を聞いてみると、レギュラーは違うところで練習してるんだとか。やってくれるね～千葉大。

その後、北大の人たちと夕食を食べ、各自北大の人の家に帰宅。こうして2日目の夜は更けていく…。

8月３０日。地下鉄できたえ～るへ。きたえ～るって

とてつもなく広いんですね。メインとサブ合わせて２８面って…。

～団体戦　対千葉大学～

ということで相手は千葉大学。結局相手の強さはよく分からなかったので無難なオーダーでいくことに。

【１Ｓ　杉本ＶＳ川口】

１セット目。体育館に慣れていないのか、相手のミスが多かった。杉本の調子もいい感じ。２１―１３で取る。

２セット目。相手が体育館に慣れ始め、どんどん攻め続けられる。逆に杉本のバックアウトが多くなる。どうやらこの体育館は風が吹いているらしい。１６―２１で取る。

３セット目。最後は杉本が動きまくって勝利。アウトもめちゃくちゃ取ってましたけどね。２１―１６。

２―１で勝利！

【２Ｓ　大藤ＶＳ神田】

試合前にお腹が痛いと言っていた大藤。それでもしっかりやってくれるだろうと思って見てました。

１セット目。いつもより動けない大藤がそこにはいました。１１―２１で取られる。でも、大藤は２セット目からだろうと思って、あまり気にせず応援。

２セット目。あれれ。リードしてない。相手が強かったのはもちろんあるけど、それ以上に大藤がいつもより調子が悪い感じ。大藤ならぬ「小藤」でしたね。１９―２１で取られる。

０―２で敗北。

【１Ｄ　白井・相川ＶＳ多胡・川口】

１セット目。バックアウトのミスで点を取られる。それにしても、相川の調子がいい気がする。スマッシュコースもサーブもきてる。しかし、俺の調子がよろしくない。１８―２１で取られる。

２セット目。ここは負けられないので、恐竜モードになることに。とりあえず俺がスマッシュを打ちまくって

前衛の相川に決めてもらう作戦に。やっぱり相川の調子はよかった。もしかしたら、相川のピークはこのときだったんじゃ…。ウソです、冗談です。作戦が成功し、２１―１５で取る。

３セット目。少々疲れが見え始め、攻撃が読まれ始める。それでもなんとか攻め続け、ラスト。２０―１９。相川のサーブ。相川のサーブ…。とりあえず入れろって祈ってたら、ナイスサーブ！まぐれか？とりあえず序盤を制し、勝利！２１―１９で取る。

２―１で勝利！

【２Ｄ　杉本・大藤ＶＳ天野・池田】

１セット目。相手が強いのもありましたが、こっちのダブルスの調子が悪かったですね。１０―２１で取られる。

２セット目。う～ん。やっぱり調子が悪い。スマッシュ打っても取られるし、レシーブもしきれてない。１６―２１で取られる。

０―２で敗北。

【３Ｓ　白井ＶＳ池田】

１セット目。意外に動ける自分に驚く。とりあえず相手のミスが多くてラッキー。２１―１８で取る。

２セット目。相手にどんどん攻められる展開に。ってか関東の人たちはとりあえずスマッシュが速い。簡単にはとれません。１５―２１で取られる。

３セット目。２セット目の勢いそのままに攻められる。マッチポイントを握られてからもなんとか追いついたんですけどだめでした。悔しい。２０―２２で取られる。

１―２で敗北。申し訳ない。

結果は２―３で敗北。勝ったら、帝京大とあたるはずだったのに。残念。

以上で団体戦は終了。この日の夜に、北大の人たちと飲み会へ。こうして３日目の夜は更けていく…。

８月３１日。この日は特に予定なし。ホントは朝早く起きれたら、団体決勝を見に行く予定だったんですけどね。無理でした。この日の俺と杉本は、お世話になって

いる北大の金澤の家でゲームをしまくる。朝３時まで。ちなみに他の人たちはちゃんと練習してたらしいです。すいません、だめな先輩で。こうして、４日目の夜は更けていく…。

９月１日。遅れてきた賢、功介、浅野と合流。この日から個人戦。

～個人戦　シングルス～

【１回戦】

功介は慶応ボーイと対戦。余裕で勝利。（２１―１２、２１―１７）

グッチの相手は中央大。何も出来ないって感じでしたね。（６―２１、１１―２１）

浅野は札幌学院大の人と対戦。浅野は、スマッシュネットを中心としたラリーを組み立てるのがよいかと。敗北。（１１―２１、１１―２１）

町田の相手は東海大。町田はもっとフットワークを頑張りましょう。スマッシュはいいもの持ってるんだから。敗北。（１１―２１、９―２１）

相川は日体大の人と対戦。意外にあっちがチキンかつ、相川の調子がいい感じで１セット目を取る。これはいけるかなって思ったら…、如何せんあっちは日体大。２セット目から立ち直る。敗北。（２１―１６、１６―２１、１５―２１）

水谷の相手は東京情報大。よく見てなかったけど、惜しかったね。水谷はもうちょっと配球を考えましょう。スピードは十分にあるんだからさ。（１８―２１、２１―１９、１５―２１）

【２回戦】

大藤、杉本、賢は勝利。どうやら余裕だったらしい。俺と功介はここで敗北。

【３回戦】

またもや大藤、杉本、賢は勝利。やるね～。

【４回戦】

大藤の相手は、日大の松川。１セット目は、大藤が萎縮していたのか、動きにキレが無い。２セット目はなんとか粘るものの…。敗北。（４―２１、１４―２１）

杉本は日体大の林と対戦。試合は直接見てないが、杉本の話だと、スマッシュとヘアピンがとてつもなかったらしい。スマッシュネットの重要性を改めて認識。敗北。（７―２１、１２―２１）

賢の相手は日大の星野。ひたすらスマッシュを打たれていましたね。それでも、賢がなんとか返すけど、めっちゃくちゃいいコースにスマッシュ。あれは取れないですね。賢ワールドが発揮できず。敗北。（１０―２１、８―２１）

こうしてシングルスは終了。次の日のダブルスに向け、夕食を食べて帰宅。こうして５日目の夜は更けていく…。

９月２日。この日はダブルス。

～個人戦　ダブルス～

【１回戦】

水谷・山口は神奈川大の人たちと対戦。俺はこの２人が組むのを４日前ぐらいに始めてみたけど、けっこう機能してるって思いました。２人ともショットが安定しているから、あとは単純なパワーとスピードを鍛えればよいかと。試合は…、残念ながら敗北。関東の大学は強いわ。（１２―２１、１４―２１）

町田・浅野は、まさかの不戦勝。

【２回戦】

杉本・大藤の対戦相手は、東海大。あっちが適当にやってて、杉本も大藤もキレてました。あのときの２人はちょっとコワかった。試合は１セット目を落とすも、２セット目をサクッと取ってファイナルへ。最終的に、あと一歩ってところで敗北。惜しい。（１７―２１、２１―８、１８―２１）

賢・功介は慶応ボーイズと対戦。特に盛り上がりもな

く、勝利。安定してますね。（２１―１５、２１―１７）

白井・相川の対戦相手は東京農大。今日も相川の調子がいい感じ。俺の調子もまずまず。競るものの勝利。（２２―２０、２２―２０）

町田・浅野の対戦相手は日体大。強いの一言でしたね。（５―２１、９―２１）

【３回戦】

白井・相川の相手は、北教大旭川。あっという間にやられたから、あまり記憶ないです。とりあえず、序盤が全てでした。敗北。（１０―２１、１１―２１）

賢・功介の相手は千葉商科大。ここに勝つと、北大の松原・山本と当たるというなんとも面白い展開。２人は七大並み、いやそれ以上に気合が入ってました。

１セット目は取られるものの、２セット目を取り返してファイナルへ。しかし、院試明けで練習不足っていうのもあってか、ミスが増え、苦しい展開に。結局、敗北。残念…。（１５―２１、２１―１９、１２―２１）

以上でダブルスは終了し、東北大バド部の東日本全日程が終了。おつかれさまでした。北大のみなさんお世話になりました。

試合終了後、学連として残る大藤、実家に帰る水谷、遊んで帰る賢、功介を置いて俺らは先に仙台へ帰ることに。フェリーに乗る前に、結構な量のお酒を買い込む。行きと同様、帰りもトランプを朝４時までやって帰宅。罰ゲームで相川が紹興酒ばかり飲んでで面白かったですね。こうして仙台へ。

以上が今年度の東日本戦記です。来年は仙台で行われる予定なので、ぜひ参加しましょう。七大が終わってすぐ、実家に帰省中など難しい時期に行われる東日本ですが、参加して損はないです。関東の強い人たちの試合を見たり、対戦するのはほとんど無いと思うのでぜひこの機会に。

長々と曖昧な記憶で書いてきましたが、これにて東日本の戦記を終わらせていただきます。